

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102997
法人名	医療法人岡本医院
事業所名	グループホームみつはま
所在地	愛媛県松山市住吉2丁目2番21号
自己評価作成日	平成22年8月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームみつはま、
 .いつもいっしょ
 同じ屋根の下で
 心と心で行きましょう・・・をスローガンに、入居者の方々とスタッフが仲良く、助け合って生活していくことを大切に努めています。
 母体は岡本医院であり、24時間往診も可能です。皆さん先生を信頼し、安心して生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

毎月のミーティングや朝夕の申し送りで、意見や提案を出し合い、職員で決めるようにされている。話し合いの中から「利用者の誕生日のお祝いを個別にしてはどうか」という提案があり、4月から、利用者一人ずつ希望を聞いて買い物や外出に出かけるを試みておられる。
 入居時に看取り支援について説明され「最期までお願いしたい」とほとんどの利用者・ご家族が希望されている。終末期の状態に至った場合には、医師・家族・管理者で「今後どうするか」ということについて具体的に話し合うようにされている。実際に事業所は、看取りの経験も多く、利用者やご家族の不安を軽減できるような支援にも努めておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームみつはま

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名

宇野 明美

評価完了日

平成22年8月11日

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念「同じ屋根の下、互いを尊重し、認め合い、助け合い、楽しく生活する」スローガンとして「いつもいっしょ 同じ屋根の下で 心と心でいきましょう」を玄関、食堂に掲げ、スタッフ間で共有し、日々実践に努めている。 同じ屋根の下に住む地域の住民として、普通の暮らしを続けていけるように皆で支援にあたっている。	
			(外部評価) 管理者は、理念を職員ミーティング時等に話し、職員それぞれが理念の言葉を捉え、日々のケアの中で理念に立ち戻るようにされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 玄関には鍵をかけず、特別に目立つものも置かず、普通の家のたたずまいにしており、地域の方と違和感なく暮らしている。散歩のときに近所の知人を訪ねたり、知り合いの方が来てくださったり自由に交流している。	
			(外部評価) 地元から入居されている利用者が多く、知人等の訪問もよくあり、又、ご本人の希望で職員が同行して知り合いのお宅を訪問することもある。散歩や買い物に行くと、声を掛けてもらうこともある。事業所は、町内会に加入されており、回覧板で地区の行事を知り得て、地方祭には住吉公園まで神輿を見に行ったりされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 日々の散歩、出会いを通じて、認知症になってもこのように普通の暮らしが続けられることを、地域の皆さんに解かっただけのように示していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の方の生活の実際、スタッフの支援の姿を皆さんに報告し、話し合いを行っている。地域の皆さん、家族の方々の意見や感想をいただき、皆さんがこのホームのことをどう思われているのか確認させていただいている。また、地域の方々の日々の暮らしの不安などを知り、今後ホームとしてどうあるべきか考えさせていただいている。</p> <p>(外部評価) 会議では事業所から、行事計画や行事時の報告・看取り支援について・外部評価結果の報告等、事業所での取り組みを報告することが主になっている。消防署の協力を得て、会議時に防火訓練を行い、メンバーの方達にも参加していただいた。又、看取り支援についての説明時には、家族から「安心する」等の感想をいただいた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の方に関する相談事などあれば常に連絡を取り相談させていただいている。事務的なことでも相談、確認などさせていただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に参加いただき、制度等についての質問等にお返事をしてくださっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 自由にその人らしくを大切に日々の支援にあたっている。身体の拘束をして自由を奪うことがいかにしてはならないことが常に話し合っている。その人その人の個性を大切に取り組んでおり代表者もそのことはよくわかってくださっている。</p> <p>(外部評価) 入院中に拘束されていた方が、入居する際には、ご家族からも身体拘束の要望があるようだが、事業所では、入居後に利用者ご本人の状態を観察して、ご家族とも相談して、居室を訪ねる回数を増やしたり、見守りやものの工夫等で拘束をしないケアの実践に努めておられる。</p>	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はあってはならないこと、常に話し合っている。スタッフ同士、そのような事がないよう互いに注意し気をつけている。勤務内容についても、無理がないようにと心がけている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業や制度について知ってはいるが、理解まではできていない職員もいる。実際にそれらの制度を利用には至っていない。問い合わせをしたことはあるが、実際、対象者が多く、在宅で暮されている方が優先となっているとのことであった。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用されようとする時の不安な気持ちを受け止め、なんでも話していただけるようにと相談にのっている。解約に関しては遠慮はいらぬこと、利用される方の思いが一番であり、その時は相談に乗ることお話ししている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、お便り、電話にて、その都度意見、要望をお聞きしている。 運営推進会議には家族の皆さんに参加を呼びかけできるだけ参加していただいている。その時、外部の方とも意見交換している。 (外部評価) ご家族や親戚が近くに多くおられ来訪も多く、運営推進会議には、6～7名のご家族の参加がある。職員の異動があった場合には、運営推進会議で報告されている。遠くにおられるご家族には、管理者が毎月手紙を書き、状況を伝え、お電話等で生活や介護について相談されている。誕生会や忘年会、花見時には、ご家族も一緒に楽しめるよう案内されている。	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一度の夜間ミーティングや日々の中で、その都度いろいろな意見、提案について話し合いを持って解決するようにしている。運営に関する会議には、代表者の出席も得ている。 (外部評価) 毎月のミーティングや朝夕の申し送りで、意見や提案を出し合い、職員で決めるようにされている。話し合いの中から「利用者の誕生日のお祝いを個別にしてはどうか」という提案があり、4月から、利用者一人ずつ希望を聞いて買い物や外食に出かけることを試みておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 通常の勤務以上に働く必要があった場合、時間外手当がついている。 研修参加は、労働時間として取り扱ってもらっており、時間外になった場合、時間外の手当てがつくなどの環境・条件の整備あり。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受ける機会を認めてくださっている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会の研修会参加、地域包括支援センターの研修参加、相互研修などを通じ同業者と交流を行いサービスの向上に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 不安な事、解からない事、してほしいと思っている事を何でも話していただけるように努めている。サービス内容についてわかりやすく説明し、本人のことに関しては、本人が話してくださることに耳を傾け、必要以上に聞くことのないようにしている。	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービス内容を解かりやすく説明している。 困っている事、不安に思っている事を何でもお聞きし、安心していただけるように努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>相談を受けた段階で、他のサービスを受ける方法もあると思えば、そのサービスについてもお話し、ゆっくりと相談に乗っていくようにしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>そのように努めている。食事の下ごしらえをしてもらったり、味見をしてもらったり、洗濯物をかたづけしてもらったり、不安な方によりそってもらったり、お互い助け合って生活している。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会時、お便り、電話にて、今の様子をお伝えし必要な相談をさせていただき、お互いに支えていく関係を築いている。 お花見、お誕生会などの行事などにも参加、協力をいただいている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みの人が訪ねてこられたら、遠慮なく過ごしていただけるように配慮している。訪ねて行きたい方があれば出かけたり、連絡して会いに来ていただいたりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者ご本人の希望でお墓参りに出かけることを支援された。</p>	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) そのように努めている。 集団生活なので、もめ事もあるが、それは、普通の家族でもあることであり、お互いがいたわりあって生活していけるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院が長引いて利用が終了しても、必要であれば今後のことについて相談に乗ったり支援したりしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者の日ごろの会話、行動などから本人の希望を見つけだし、職員間で共有している。問題があれば、その都度検討している。本人の希望に沿うことを1番にと努めている。 (外部評価) 利用者個々の担当職員は、日々の介護記録の内容をもとに、月末に「月の様子」とまとめて粹で囲んでおられた。	現在は、記録内容が「職員が観察したこと」が主になっているので、今後、利用者の立場に立ち、思いや意向等も記録していきたいと考えておられた。利用者から得た情報を介護計画に採り入れていけるよう利用者個々の状態に合わせて工夫し、探っていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報は、多いとは言えないが、日ごろの会話などから、過去の生活や趣味などを知り、今の生活でも可能なことは応用し、実践している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 現状の把握には日々検討し、把握に努めている。	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>そのように取り組んでいる。 健康管理・医療的管理については、主治医と相談し指示もいただきながら、介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護認定の更新時には、ご家族個別に要望や意見を聞くようにされている。担当者が月末にまとめた記録や「ケアプラン会議」時の職員の話し合いをもとに、計画を作成されている。3ヶ月に1回の見直し以外にも、状態変化時には、計画を見直すようにされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別記録に日々の様子や気づきなどを記入しており、職員間で情報を共有し、実践している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>充分とはいえないかもしれないが、そのように取り組んでいる。(カットサービスの利用、受信の付添い、緊急事対応、書類提出の代行など・・・)</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の行事に参加したり、近所への散歩で皆さんと仲よくなり、顔とか様子を知っていただいている。地域の米屋、醤油屋、電気店、クリーニング店など顔見知りあり。 地域の防災訓練にも参加している。</p>	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>そのように支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入居時、ほとんどの方が母体病院にかかりつけ医を移 されるようで、元の医療機関とも連携を取りながら、 支援されている。ご家族からは「かかりつけ医がすぐ 隣で頻りに診てもらえるので安心」という声が多いよ うだ。歯科や整形外科等の専門医への通院時には、職 員が同行されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>そのように支援している。 介護職員は、日常業務で気づいたことを、その都度、 管理者、看護師などに伝え、相談している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	
32		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>そのように取り組んでいる。 本人、家族の方の不安を軽くするよう心がけ、支援に あたっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入居時に看取り支援について説明され「最期までお願 いしたい」とほとんどの利用者・ご家族が希望されて いる。終末期の状態に至った場合には、医師・家族・ 管理者で「今後どうするか」ということについて具 体的に話し合うようにされている。実際に事業所は、看 取りの経験も多く、利用者やご家族の不安を軽減でき るような支援にも努めておられる。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>そのように取り組んでいる。 本人、家族の方の不安を軽くするよう心がけ、支援に あたっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入居時に看取り支援について説明され「最期までお願 いしたい」とほとんどの利用者・ご家族が希望されて いる。終末期の状態に至った場合には、医師・家族・ 管理者で「今後どうするか」ということについて具 体的に話し合うようにされている。実際に事業所は、看 取りの経験も多く、利用者やご家族の不安を軽減でき るような支援にも努めておられる。</p>	

自己評価	外部評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		<p>(自己評価)</p> <p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p> <p>訓練は、定期的には行っていません。(9月に実施予定あり) 急変に際しては、自分で勝手に対応することは禁止しており、まず、Dr(代表者)Or看護師、管理者に連絡を入れ指示を受け対応することになっている。</p>	
35	13	<p>(自己評価)</p> <p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p> <p>防災訓練は、定期的に行っており、地域の方の協力体制も得られるようになってきているが、充分とは言えない。今後も消防の方より指導を受け、訓練の積み重ねが必要と思っている。</p>	
		<p>(外部評価)</p> <p>定期的に夜間想定避難訓練をされている。運営推進会議のメンバーでもある米店やクリーニング店の方にも、いざという時協力いただけるようお願いされている。2階の利用者の避難については「火元から離れることと、ベランダに出て助けを待つ」ことを職員で話し合われた。地区の防災訓練に参加され、地域の方達とともに防災について体験されたり学ばれた。</p>	
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
36	14	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p> <p>そのように努めているが、職員全員ができていないと言えない。努力を続けていく必要あり。</p>	
		<p>(外部評価)</p> <p>職員は、日々のケアの中で事業所の理念に立ち戻り点検するよう努められるが、時に利用者のプライバシーへの配慮や利用者同士の関係性への対応、声かけ等に難しさを感じる面もあるようだ。</p> <p>利用者の中には、介助は必要であるが「できるだけ人の手を借りず、自分で自分のことをしたい」と思っている利用者もあり、管理者は「個々の思いの把握にも取り組み、注意深く見守って行けるようにしたい」と考えておられた。</p>	
37		<p>(自己評価)</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p> <p>そのように働きかけている。</p>	

自己評価	外部評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		<p>(自己評価)</p> <p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	
39		<p>(自己評価)</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	
40	15	<p>(自己評価)</p> <p>食事は1番の楽しみと考え、それぞれの方に合わせた食事作りに努めている。利用者さんの中には、下ごしらえをしてくださったり、味加減を見てくださる方もおられる。職員もいっしょに食事を楽しんでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護度が重度の利用者が増え、現在は、食事の支度を職員と一緒にできる方がお一人くらいになっているようだが、人参の皮むきや食器洗い等「利用者個々ができること」を行えるような支援に努めておられる。又、介助が必要な利用者が増えたこともあって、食事時間は昼を11時から等、早めに始めるようにされている。嚥下機能が低下しても、できるだけ口から食べてもらえるような支援に努めておられ、一人ひとりに合わせて握り食・きざみ・雑炊・ミキサー・とろみ等、食材にも合わせて調理されている。調理に時間がかかるため、現在、週1回お弁当をとることを試みておられた。食事支援については、事業所の体制や利用者の状態のこともあるだろうが、ご家族等にも意見をうかがいながらすすめていかれてほしい。</p>	
41		<p>(自己評価)</p> <p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	
42		<p>(自己評価)</p> <p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			オムツ使用して尿意がある人は、本人の意思でトイレ誘導しているが、尿意がはっきりしない人は、定期的に声掛けし、トイレ誘導している。P-トイレ利用などそれぞれに合った支援を行っている。	
			(外部評価)	
			尿意が確かでない方でも、ご本人からの訴えがあればトイレにお連れしたり、そぶりをみて、時間を見計らい、誘導してトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			食事は、栄養が偏らないように、繊維質もとり、水分摂取量に注意し、乳製品を摂るようにしている。必要時、Dr指示のもと下剤を服用し調整している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			個々の状態に応じた入浴支援を行っているが、要介護度が高い方が多いため、自由に入浴することは難しいが、希望に沿えるよう努力している。	
			(外部評価)	
			2階の浴室は、トイレと一緒にいるため現在は、トイレとして使用されている。介護度が重度の利用者は、清拭と足浴で対応されている。夜はしんどいと言われる方もあり、現在は、2日に1回程度、午後入浴となっている。	長時間をベッドで過ごされる利用者でも体調等をみながらなら入浴が可能な方がおられないだろうか。利用者を最期まで看ることのできる事業所でもあり、いろいろな状態の方、それぞれが気持ちのいい入浴ができるよう取り組みをすすめていかれてほしい。利用者の希望や法人の意見、ご家族の要望等もお聞きしながら、検討を重ねていかれてほしい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			安心して眠れるように対応し、支援している。	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 新しく服用開始になったものについて、必ず申し送りをしており、服用後の様子観察に留意するようにしている。必要時はDrより説明を受けたり、不安なときはDrにうかがうようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 介護度の高い人が多くなり判断できにくい、希望に沿った支援に心掛けている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) そのように支援しているが、自分では動くことのできない方、衰弱されて動けない方もおられる。今年度より、本人の誕生日には希望されるところへ希望される内容で出かけることを実施している。(外出できない状態の方も、希望に沿ったお祝いをさせていただくことにしている。	
			(外部評価) ご自分で歩ける方や車いすを使用されている方は、午前中、公園や川沿いを散歩されており、2日に1回は食材の買物と一緒に出かけられる。希望や必要に応じて、補聴器の購入や調整に行ったり、ご家族と外出される方もある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望に沿って、ご自分でおこずかい程度を持たれている方もおり、買い物に使ったり、散髪の費用を支払ったり、必要なときには、いつでも使えるように支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) そのように支援している。	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>建物自体は、北欧の優しい色使いで刺激が少ないものである。室内には季節の花を飾り季節感を取り入れている。皆が過ごす所や廊下に椅子やソファを置いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2階への階段には、昇降機を取り付けておられる。廊下には、お出かけや行事時の写真を多く貼っておられた。ホーム内は床暖房の設備がある。調査訪問時、テレビの好きな方は、居間のよく見える場所を確保され、音楽の好きな方は、昼食後、コンポの前でお好きな歌手の歌をじっくり聴いておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとり自由にくつろげるよう、ソファ、テレビを配置し思い思いに過ごせるように見守っている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>皆さんそのようにされている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>好きな観葉植物の世話を家族と一緒にされたり、ご姉妹からの絵手紙やご家族の写真を飾ったりされている。敬老の日に職員からもらった寄せ書きも大切に飾っておられた。たんすや衣装ケース・仏壇を持ち込んでおられる方もある。2人部屋があり、ご夫婦が一緒に過ごされている部屋もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>普通の家に近い作りなので、自分らしく過ごしていけると思うが、反面、車椅子でのトイレ利用は不便である。障害のある方にとっては、暮らしにくい部分もあり。</p>	